

特集

長期連用薬剤の循環系への影響

山本道雄*

長期連用薬剤の循環系に及ぼす影響と言う統一テーマで内科、麻酔科、外科、精神科のそれぞれの権威者に執筆して頂いた。

愛媛大学の国府教授には、内科医の立場から降圧薬、狭心症、心筋症の治療薬、抗不整脈薬、等循環系疾患に使用する薬剤の長期投与の副作用に就いて詳細に説明して頂いた。

東大の稲田教授には、これらの投薬治療を受けている患者の麻酔管理を行う際の問題点に就いて説明して頂いた。術前からの投薬を継続するか、中止するかに就いては薬剤ごとに異論のある所である。高血圧に対する降圧薬の使用については、一般の手術では投薬をつづけることで一応見解の統一が得られているが、開心術では異なる様である。

女子医大の外科の今井教授は、開心術の術中、術後管理に関連して、心予備力の少ない開心術患者には、降圧薬としての β -ブロッカーや、電解質異常に過敏に反応するギタリス製剤の投与は中止していると述べておられるのは興味ぶかい。

防衛大麻酔科福島教授には稲田教授との重複を避け、麻酔に関連した薬剤の相互作用を考えるとという立場から執筆して頂いた。従って循環器以外の臓器への影響にも言及して頂いた。各論文を一つずつ読んで頂く一方、薬剤毎に患者の意見を讀んで行くのも一つの読みかたと考える。

川崎医大の精神科渡辺教授には、向精神薬、抗鬱薬、リチウムの長期投与の循環器への影響についての総説を頂いた。

これら薬剤の投与を受けている患者が手術、麻酔の対象となることも多く、ペインクリニックでこれら薬剤を使用することも多い。心電図異常や突然死の問題を取り上げて頂き、裨益するところがおおい。

この特集は、誌上シンポジウムとして座談会を行う予定であったが、都合で中止し特集号として発刊することになった。

各執筆者とも、読みやすく纏めて頂いてあるが、座談会を持たず残念であった。

* 岐阜大学医学部麻酔学教室